



トランスジェンダーのアイデンティティにおける重 属性と動態性

著者	宮田 良
雑誌名	教育科学セミナー
巻	46
ページ	41-42
発行年	2015-03-31
その他のタイトル	Reports : Summaries of Master Theses, 2014
URL	http://hdl.handle.net/10112/8926

トランスジェンダーのアイデンティティにおける 重層性と動態性

宮田 良

本稿では、トランスジェンダー（出生時に割り当てられた性別を越境して生活する存在）の人々を対象に生活史調査を行い、当事者たちのアイデンティティのゆらぎ（自己イメージと規範意識との葛藤）を、「女性性／男性性、性役割観、性的欲望がどのように捉えられているか」といった、ジェンダー／セクシュアリティの視点から分析した。

これまで、日本のトランスジェンダー研究におけるアイデンティティ論では、上記のようなジェンダー／セクシュアリティの視点が用いられることはほとんどなかった。さらに、

1990年代半ば以降、トランスジェンダーの精神病理化に基づく、性同一性障害概念の普及により、当事者たちのアイデンティティのゆらぎは、この疾患概念に起因する問題として捉えられる傾向があった。

他方、日本のジェンダー／セクシュアリティ研究におけるアイデンティティ論では、トランスジェンダーが調査の対象となることはほとんどなかった。たとえば、当該研究には女子生徒たちのサブカルチャーに注目し、帰属集団に応じて評価する女性性や性役割観が異なる様子を示した研究や、ジェンダーをめぐる価値が多文化し錯綜した社会において、異なる価値にコミットし、多様化する青年期男子たちの様子を示した研究などが存在している。これらは、同性内における複数の女性性／男性性、性役割観、性的欲望を描き出すことによって、女性または男性のアイデンティティにおける重層性や動態性を示す、重要な知見となった。しかし、いず

れも女性または男性を対象とした研究であるため、トランスジェンダーのアイデンティティのゆらぎが、いったいどのように生じているのかは明らかにされていない。

以上、日本のトランスジェンダー研究におけるアイデンティティ論では、ジェンダー／セクシュアリティの視点が用いられることはほとんどなく、他方、ジェンダー／セクシュアリティ研究におけるアイデンティティ論では、トランスジェンダーの人々が調査の対象となることはほとんどなかった。そのため、トランスジェンダーの人々を調査の対象に、「当事者たちのアイデンティティのゆらぎが、いったいどのようにして生じているのか」について、これまでジェンダー／セクシュアリティの視点からはほとんど明らかにされてこなかった。

そこで本稿では、トランスジェンダーの人々を対象に生活史調査を行い、ジェンダー／セクシュアリティの視点から分析を行った。分析については、まず、「同じ時期に特定の社会や集団に参入した人々からなる集団」であるコーホートに着目し、各インフォーマントが直面したアイデンティティのゆらぎを分析した。次に、それぞれのゆらぎを当事者たちが肯定（積極的肯定／消極的肯定）／否定しているかや、各インフォーマントが直面したアイデンティティのゆらぎが、女性または男性という「性別カテゴリーそのもの」に係る水準なのか、あるいはそうした「性別カテゴリーに対する意味づけ」に係る水準なのかに着目して分類し、その後全体をまとめ直して分析を行った。そして、結論と

して当事者たちのアイデンティティのゆらぎ
は、複数の女性性／男性性、性役割観、性的欲

望が重層的かつ動的に絡まり合っていることを明らかにした。